

志と誇りを胸に、夢に挑戦し続ける生徒の育成

～一人一人が自信をもって表現できる環境づくりと授業改善～

総論

1. 近年の動向と研究内容

(1) 近年の動向について

本校では、令和3年度から令和5年度までの3か年、1人1台端末を活用した授業改善を行ってきた。昨年度の研究主題は、生徒一人一人の「学ぶ力」を育成する指導法の工夫で、一人一台端末の活用法を探ってきた。また、端末を活用して離島との遠隔授業について実践を重ねた。これまで研究指定校であった蓄積を生かしながら、職員や肥前中生徒の実態に即した本校独自の新たな研究課題を設定したい。

(2) 研究内容

① 研究の「共通の柱」

- 生徒一人一人が自信をもって表現できる環境づくりをめざし、授業・家庭学習・その他の様々な教育活動において必要な実践を行う。(図1)
- 学ぶ意欲(学びに向かう力)、学んだ力(基礎的・基本的な知識及び技能)、活かす力(思考力・判断力・表現力)の3つを「学ぶ力」とし、一人一台端末を活用しながら、活かす力に重点を置いた授業改善を行う。

② 具体的な取組

- 授業における生徒一人一人が自信をもって表現できる環境づくりをめざした取組
- 家庭学習における生徒一人一人が自信をもって表現できる環境づくりをめざした取組
- 様々な教育活動における生徒一人一人が自信をもって表現できる環境づくりをめざした取組
- 授業研究会を年に3回行い、一人一授業公開することで、授業改善をはかる取組

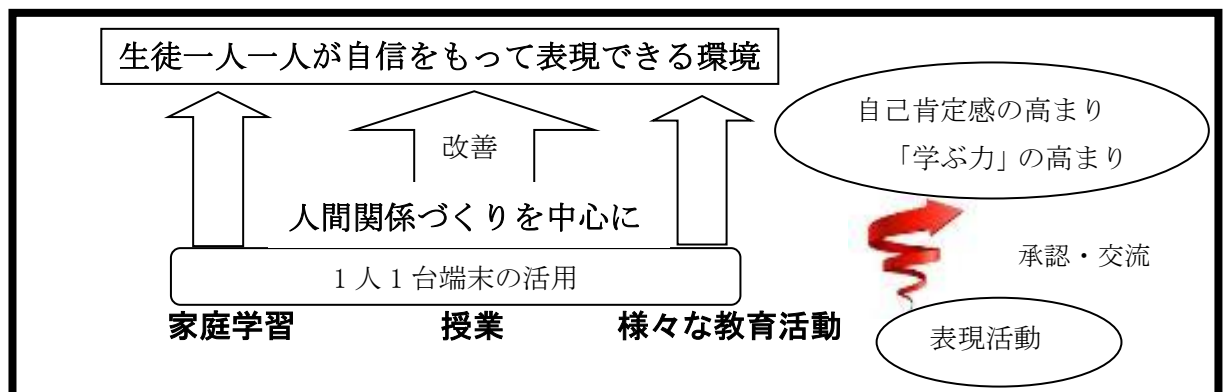


図1 研究構想図

2. 研究の概要

(1) 主題設定の理由

本校は、学級数5クラス（普通学級3クラス・特別支援学級2クラス）の小規模校である。生徒は全体的に純朴でおおらかであるが、学習に対する苦手意識が強く、主体的な学習が進まず自己肯定感が低い生徒がみられる。地域全体として通塾率は低く、家庭学習にかける時間も少ない。そのような中で、令和5年度は、「学ぶ力」を育成するために、授業、家庭学習、様々な教育活動において、1人1台端末を活用した指導法の工夫を行ってきた。

学習指導要領では、急速な社会の変化の中、一方的に知識を得るのではなく、「主体的・対話的で深い学び」を実現し、生涯にわたって能動的に学び続ける力の育成を目指している。そこで本校では、令和2年度に、これからの時代に求められるこうした力を「学ぶ意欲（学びに向かう力）」「学んだ力（基礎的・基本的な知識及び技能）」「活かす力（思考力・判断力・表現力）」の3つに分け、これら3つの力をまとめて「学ぶ力」とした。そして、この「学ぶ力」を育成するには、授業や家庭学習、様々な教育活動において1人1台端末を活用した活動が有効であると考えた。また、文部科学省から出された「子どもたち一人ひとりに個別最適化され、創造性を育む教育ICT環境の実現に向けて」では、PC端末が鉛筆やノートと並ぶマストアイテムとして令和時代のスタンダードになり、多様な子どもたちを誰一人取り残すことのない公正に個別最適化された学びや創造性を育む学びに寄与すると示されており、令和3年度からは、1人1台端末を活用し、「個別最適な学び」や「協働的な学び」についても、新たな指導法を探ってきた。端末を活用した授業については実践を積み重ね一定の成果を出すことができたが、自己肯定感を高め、生徒が自信をもって表現活動を行うためには人間関係づくりの土台が必要であることがみえてきた。

そこで、本年度はこれまでの1人1台端末の実践は継続しながら、授業や家庭学習、様々な教育活動において、生徒一人一人が自信をもって表現できる環境づくりを研究主題として掲げた。授業においては、「学ぶ力」の中の活かす力に重点を置き、表現活動の中で、自信をもって他者に表現できる手立てを探り、実践を重ねたい。また、家庭学習においては、目的をもった課題を設定し、成果を承認する環境を整備して、生徒が自信を持つために必要な基礎的・基本的な内容の定着や表現を行う課題を設定したい。さらに、学校生活の様々な教育活動においても、表現を行う場を設定し、生徒それぞれの活動の成果を承認することで、自信をもって表現できる環境づくりができると考えた。

これらの実践を通して、肥前中学校生徒一人一人が自信をもって表現し、「学ぶ力」や自己肯定感の向上を目指し、研究主題に掲げた「志と誇りを胸に、夢に挑戦し続ける生徒の育成」をはかるべく本主題を設定した。

(2) 「学ぶ力」の定義

生涯にわたって能動的に学び続ける力を、「学ぶ意欲(学びに向かう力)」「学んだ力(基礎的・基本的な知識及び技能)」「活かす力(思考力・判断力・表現力)」の3つに分けて、これら3つの力をまとめて「学ぶ力」とした。

(3) 「一人一人が自信をもって表現できる環境づくり」の定義

一人一人が自信をもって表現するためには、人間関係の土台づくりが欠かせない。お互いの長所を生かして協力したり、短所を補ったり、時には不安や悩みに寄り添う「支え合い」ができ、安心して生活できる人間関係のある環境を「支持的風土」とよぶ。本校では、この支持的風土を土台にして、さらに表現活動を充実させるための手だてを行い、自信をもって表現できる環境づくりをめざす。

(4) 研究内容と方法

- ① 「授業における人間関係づくり」についての研修を行い、授業実践を積み重ねる。
- ② 5月にQUアンケートを行い、自己肯定感の低い生徒を把握する。表現活動を授業、家庭学習、行事など様々な場面で設定し、自己肯定感の高まりがあったかを、2回目(11月実施)のアンケート結果と比較して分析する。
- ③ 6月に学習アンケートを行い、授業や家庭学習、様々な教育活動における取組状況を把握する。どのような変化が表れたのか、2回目(11月)のアンケート結果と比較して分析する。
- ④ 6月に意識調査を行い、「人の役に立つ人間になりたいと思うか」「将来の夢や目標を持っているか」「自分にはよいところがあると思うか」について生徒の状況を把握する。授業や家庭学習、行事など様々な場面で、表現活動を設定し、2回目(11月)のアンケート結果と比較して分析する。

(5) 期待する研究成果

授業、家庭学習、様々な教育活動において、表現活動を設定し、生徒一人一人が自信をもって表現できる環境づくりを行うことで、「学ぶ力」や自己肯定感が高まる。そして研究主題に掲げた「志と誇りを胸に、夢に挑戦し続ける生徒の育成」をはかる。

(6) 研究組織

研究推進委員会

校長・教頭・教務主任・研究主任・Eリーダー・各学年研究推進委員